

令和元年度いばらきっ子郷土検定練習問題 解答と解説

常陸太田市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	常陸太田市の総面積は、371.99平方キロメートルです。茨城県内44市町村の中で一番広いです。	4
2	磯出大祭礼(いそでたいさいれい)は、東金砂(ひがしかなさ)神社と西金砂(にしかなさ)神社の神様が、日立市水木(みずき)浜まで一週間かけて往復する祭りです。72年に一度という全国でも珍しい祭りで、次回は2075年に開催されます。国選択無形民俗芸能、県指定無形民俗文化財に指定されています。	1
3	常陸太田市は、山地特有の昼夜の気温差が大きい気候と傾斜地に拓(ひら)いた畑の土壌を生かし、良質なそばの産地として江戸時代から続いています。常陸秋そばは、常陸太田市が発祥の地といわれ、1985年(昭和60年)に県の奨励品種に採用されました。	3
4	竜神大吊橋は375メートルで、歩行者専用として日本最大級の長さを誇ります。また、バンジージャンプは100メートルで日本一の高さを誇ります。	4
5	西山荘のほど近くにある西山公園は、およそ4.8ヘクタールの広大な敷地を誇る公園です。花見の名所としても市内外に広く知られており、園内には1,500本ものサクラが植えられています。	2
6	水戸藩第2代藩主徳川光圀(とくがわ みつくに)の幼名は千代松(ちよまつ)。字(あざな)は子竜(しりゅう)、号は梅里(ばいり)。諡(おくりな)は義公(ぎこう)。中納言の唐名(とうめい) 黄門(こうもん)により、世に水戸黄門とも呼ばれています。大義名分を重んじて儒学を奨励、彰考館を設けて俊才を招き、大日本史を編纂しました。	1
7	梅津福次郎(うめづ ふくじろう)は、太田町を訪れた際に当時の町役場があまりにも古くて狭かったため、役場建設に寄付を申し出たそうです。	2
8	泉福(せんぷく)寺は、1684年(貞保元年)に廃寺であった松安(しょうあん)寺の跡地に日立市小木津(おぎつ)より引寺(ひきじ)されました。このシダレザクラはその際に植樹されたものと考えられており、茨城県の天然記念物に指定されています。その推定樹齢は300年、根回り4メートル、目通り幹囲(めどおりかんい)3.5メートル、高さ20メートルと、茨城県内でも有数の樹勢を誇る巨木として、古くから多くの観光客の目を楽しませてきました。	2
9	汁ONEカップは、オリジナルの汁物で優勝を競うイベントで、2019年(平成31年)で8回目を迎えました。実行委員会に市や観光物産協会が協賛し、2月ごろ、JR常陸太田駅前広場で行われています。	3
10	笛や太鼓の響きに乗って、天狗や鬼の面を着けた田楽師が四方固め(しほうがため)などを舞う東・西金砂神社の金砂田楽(かなさでんがく)は、1960年(昭和35年)に県の無形文化財に指定され、1971年(昭和46年)には国として記録保存の措置を講ずべき国選択無形民俗文化財に選ばれました。	1
11	常陸青龍は、本多勇吉(ほんだ ゆうきち)氏が情熱を傾けて育成した黄緑色のブドウです。孫の本多技研(ほんだ ぎけん)氏が2004年(平成16年)3月に品種登録しました。色はマスカットのような黄緑色ですが、味は酸味が少なく、びっくりするくらい糖度が高いブドウです。	4
12	凍みこんにやくは、全国で唯一、茨城県だけで生産されている幻の食材です。凍みこんにやくは、もともと常陸太田市天下野町(けがのちょう)の特産品です。凍みこんにやくは、江戸時代から、農閑期の副業として盛んに作られてきました。	2
13	常陸太田市の花に制定されている花は、やまぶき(1979年(昭和54年)6月23日制定)です。常陸太田市の木に制定されている木は、けやき(1979年(昭和54年)6月23日制定)です。常陸太田市の鳥に制定されている鳥は、かわせみ(2001年(平成13年)12月14日制定)です。	3
14	西山の里桃源では、毎年6月に、池や橋を配した約8,000平方メートルの庭園に3,000株の花菖蒲が咲き誇り、行灯(あんどん)によるライトアップを行います。	2
15	里川かぼちゃは里美地区の里川町で栽培されている地域特産野菜の一つで、常陸太田市の認証特産品にもなっています。皮がピンク色で、ほくほくとした食感と甘さが特徴です。	1
16	雪村(せつそん)は、室町時代末期に活躍した水墨画家です。佐竹氏一族の出身で、雪舟に師事した後は独自の画風を確立し、数多くの優れた作品を世に送りだしました。茨城県の郷土工芸品である「雪村団扇(うちわ)」は、遍歴の途中にあった雪村が、瑞龍(ずいりゅう)町の耕山(こうざん)寺に滞在していたときに創始したものといわれています。	4
17	瑞龍(ずいりゅう)遺跡では、道路改修工事に伴い、2017年(平成29年)、2018年(平成30年)の2か年にわたって発掘調査が実施されました。奈良・平安時代の存在が推測できる円面硯(えんめんけん)などを含む、縄文時代から中世にいたるまでの遺物が出土しています。	4
18	山寺晩鐘(やまでらばんしょう)は、太田落雁(おおたらくがん)とともに、水戸藩第9代藩主徳川斉昭(とくがわ なりあき)が領内を巡視し選定された水戸八景に選ばれました。藩士の文武を奨励した斉昭は、八景めぐりを通じて自然観賞を勧めることで、藩士たちの心身の鍛錬を図ったとされます。	2
19	大分県臼杵(うすき)市とは、二孝女(にこうじょ)物語を通して市民団体の活動を通して相互交流を続けており、経済交流や文化交流など幅広い分野において、両市の結びつきが一層深まり、ともに発展していけるように、2015年(平成27年10月10日)に姉妹都市の提携をしました。	3
20	若宮(わかみや)八幡宮の大ケヤキの木は鳥居の先にあります。樹齢は約500年、高さ約30メートル根回り約14.05メートルで、県指定の天然記念物ともなっています。	1
21	全国的な市町村合併の機運の高まりに伴い、2004年(平成16年)12月1日に常陸太田市は、金砂郷(かなさごう)町、水府(すいふ)村、里美(さとみ)村の3町村を編入して、62,755人(約63,000人)の新たな都市として誕生しました。	4
22	常陸太田市は、南北約40キロメートル、東西約15キロメートルの長さがあり、縦長です。	2
23	都々逸(どどいつ)は、水戸領磯部(いそべ)村(現在の常陸太田市)に生まれた都々逸坊歌(どどいつぼうせんか)によって、江戸時代末期に大成された七・七・七・五の口語調で歌われる俗曲です。1988年(昭和63年)から常陸太田市では、都々逸全国大会が開催されています。	3
24	寒水石(かんすいせき)は、現在の常陸太田市周辺に産する古生層中に挟まれた結晶質石灰岩(大理石)の石材名です。弘道館の記念碑や借楽園の吐玉泉(とぎょくせん)、温泉地の浴槽などにも使われています。	4
25	梵天山(ぼんてんやま)古墳は、全長160メートル、石岡市の舟塚山(ふなつかやま)古墳に次いで、県内2番目の大きさの前方後円墳です。かつて久慈川流域を支配していた久自国造舟瀬足尼(くじのくにのみやつこ ふなせのすくね)の墳墓と伝えられています。	3